

指定管理者評価シート			
事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数： 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数： 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

Ⅱ 令和5年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。	A B C D これまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、適正に取組んだ。	条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。	条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待する。
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 電気、水道、地域熱等の使用については、空調設備及び電気設備業者等と連携を取り、改修工事により省エネ性能が高い機器類に入れ替わり、引き渡し時に効率のよい稼働方法について確認の上、運用した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。 ▼ 「環境科学展」の開催により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。	可能な限り効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。改修工事期間においては、工事業者と連携を図り、可能な限り節電できるよう調整した。 事務室移転に伴い発生した廃棄物については、清掃業務委託業者とも連携し、可能な限り分別して廃棄した。近隣の企業や団体等と連携し、環境問題と対策技術の現状を学べる展示「環境科学展」を開催することにより、市民に対して省エネ・環境配慮に関する取組みを周知することができた。	他業者とも連携を図り、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。 環境科学展においては、市内等の企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状などについて、子どもたちにわかりやすく広めたことを評価する。

	▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。 ▼ 館長1名、課長2名、係長5名を配置した。 ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・契約職員・パート職員等の採用を行った。 ▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。 ▼ 人材育成のため、動画を用いたeラーニングでの研修を実施するとともに、オンライン含めた外部研修等に参加した。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与と規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。 ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ▼ グループウェアを積極的に活用した業務体制づくりを進めるなどして、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。 ▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。 ▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認) ▼ 休館中でも稼働設備機器を維持するため、電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。 改修工事業者へ通常時の機器の稼働状況等を説明対応し、新旧展示物の初期不良やメンテナンス時の即時一時対応するため、専門業者へ再委託した。	適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。 研修会等にも積極的に参加することで、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。 各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。 これまでの運営経験で培われたノウハウを活かすとともに、IT技術を活用することで管理水準の維持向上につなげた。 施設の維持管理および展示物の保守管理を同一業者に委託し、改修工事業者とも連携することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。	管理運営組織が確立されていることを評価する。職員会議に加え、機動的に情報共有を行い、意思決定できるよう組織体制づくりをさらに進めること。 研修会等については、対面の他、オンラインを活用するなど、職員の専門性、技術の向上に努めたことを評価する。専門性が求められる分野であることから、継続した人材育成を期待する。 就業規則や36協定等については、研修や会議等の機会を利用し、職員への周知に努めていただきたい。 グループウェア導入を機に、BPRを実施するなどして会議回数を減らす等の科学館全体の務プロセスの再構築をし、実質的な効率化が見えるよう期待したい。 経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。
--	---	---	---

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月21日	・令和4年度の来館者数と事業の報告について ・令和5年度の来館者数と事業の報告について ・今後の事業計画について ・科学館の運営上の課題について
第2回 12月8日	・令和5年度の事業参加者数について ・今後の事業計画について ・科学館の運営上の課題について
第3回 3月12日	・令和5年度の事業参加者数と事業の報告について ・今後(令和6年度)の事業予定について ・科学館の運営上の課題について
<協議会メンバー> 北海道情報大学 副学長、札幌市立しらかば台小学校校長、札幌市立栄南中学校校長、一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長	

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

科学館の運営管理における有意義な意見交換が行われる場となるよう、引き続き、協議手法について検討すること。
運営委員会で寄せられた意見を具体化するためのスキームを検討すること。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応している。

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適正な資金管理が行われていることを評価する。
今後も事故を未然に防ぐため、職員の意識啓発に努めていただきたい。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。

▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。

規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。

▼ 現金等の取扱いについては「小口現金取扱要領」に則り、適正に行っている。

	▽ 要望・苦情対応 ▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。 ▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を実施した。主に生涯学習センターでの事業に参加された利用者を対象に記入式のアンケートを実施し、寄せられた利用者の声は事業運営等に活かしている。	要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。 科学館全体に関する満足度については95%以上となり、高い満足度であることがわかった。また、西区でのイベントが増えたことにより、これまで科学館のイベントに参加したことがなかった方からは「これからもちえりあでイベントを開催してほしい」との声が多く聞かれたため、新たな客層を取り込むために今後も出張イベントの実施について検討していきたい。	苦情等については、適切な処理が行われているが、利用者からの声を真摯に受け止め、さらなるサービスの向上に繋げることを期待する。また、利用者に対し、要望・苦情に対応する部署の周知を図ること。 利用者の高い満足度がうかがえるものの、アンケートの調査標本数が少ないため、目標数のアンケート数を回収し、運営に生かすよう早急に改善策を策定すること。
--	--	---	--

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めている。	関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。 社労士に委託し、相談窓口の設置や労働環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋がった。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するよう努めること。 就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていただきたい。	A	B	C	D								
A	B	C	D												
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼ 災害時の対応について、財団で定めた消防計画、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成等に即して、適切に役割分担を行い、利用者の安全確保に努めている。 また、緊急連絡網を作成し、有事に備えた連絡体制を整備している。 ・施設管理者賠償責任保険 対人賠償 1事故1,000,000,000円(免責なし) 1人 100,000,000円(免責なし) 対物賠償 1事故 50,000,000円(免責なし) ・レジャー・サービス施設費用保険 死亡1名あたり500,000円 後遺障害1名あたり500,000円 入院1名あたり ~100,000円 通院1名あたり ~50,000円 ・レクリエーション傷害保険 死亡・後遺障害1名あたり1,000,000円 入院日額1,500円 通院日額1,000円	各種災害に関する避難マニュアル等を作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、今後も新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策を適切に行うこと。	A	B	C	D								
A	B	C	D												

	▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、改修工事引き渡し後は適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物保守については、第三者委託により実施している。 ▼ 躯体の老朽化に伴う修繕については、札幌市教育委員会と調整を図り、対応した。 ▼ 機器設備等の故障箇所等については、可能なものは速やかに修繕を行った。大規模な設備の修繕に関しては、札幌市教育委員会と調整を図った。 ▽ 防災 ▼ 消防計画に則り、ちえりあと協同して避難訓練を実施した。また科学館に事務室を移してから、再開館に伴う混雑を想定した避難訓練を実施し、避難誘導体制の確認に務めた	第三者委託業務については、適正な管理監督を行い、業務完了時には完了報告書を受け、業務内容について監修した。確認後は毎月報告書を提出し委託業務の適正な管理等を行った。事務室移転中は、科学館に駐在する設備業者と連携を取り、開館時同様に日々報告書をデータにて受領するなどし、科学館職員不在時における保守体制についても万全となるよう努めた。 施設・展示物の維持管理について、財団で修繕可能なものは速やかに修繕を行った。 開館時における火災発生を想定し、可能な限り現実に即した体制で防災訓練を実施した。常勤の職員のほか、各委託業者やパート職員を含めた館に係る全員が参加し、実施後は全員で振り返りを行い改善点や正しい知識を共有したことで、スタッフ全員の対応力の向上を果たすことができた。事務室移転期間中については、移転先の施設が実施する訓練に参加することで、移転期間中についても職員の防災意識を高めることが出来た。	適切に取り組まれていることを評価する。事務室移転中も他業者と連携し、科学館の保守に努めたことを評価する。施設の老朽化への対応については、利用者だけでなく、近隣住民にも大きな影響を与える事故に発展する可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。 適切に取り組まれており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。
--	---	--	---

(4)事業の計画・実施業務			A B C D
	▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 ・夏休み「あそんでまなぼう！じしゃくのちから」 2日間開催(来場者4,980名) 夏休み期間中に、札幌駅前通地下広場(チカホ)にて、磁石の性質や特徴について体験的に学ぶことができる展示を開催した。 ・冬休み「冬のサイエンスまつり」 2日間開催(来場者4,700名) 冬休み期間中に、新さっぽろアーキシティサンピアザ1階光の広場にて、リニューアル後の展示物に関連付けた展示および実演を開催した。 ・環境科学展 8/27開催(来場者631名) ちえりあにて、企業や団体と連携し、環境問題と対策技術に関する実演や実験を実施した。 ▼ ちえりあにて、最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会を実施した。 ・先端科学技術講座 山崎直子宇宙飛行士特別講演会「新しい宇宙時代」 (参加者330名)	夏・冬ともに2日間の開催であったが、科学の原理やリニューアル後の科学館のPR等を実施し、多くの参加者に体験いただいた。 先端科学技術と科学の面白さや楽しさと、私たちの身近な暮らしを関連して伝えることができた。当館名誉館長である山崎元宇宙飛行士に来館いただき、講演いただいた。	合計4日間という短い期間の中で、1万人近くの集客をしたことについて高く評価する。再開館後も市民の科学や科学技術への興味・関心を喚起できるようなアウトリーチ企画を期待する。 山崎名誉館長のイベントは幼児から高齢者まで幅広い層から人気がある内容のため、今後も講演などを通して本市科学館のPRに協力いただき、これまで科学に興味・関心がなかった方にも科学館に来館してもらえるようなイベントの実施に期待する。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室

科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。
通常(日祝) 76回 参加者632名
春休み 8回 参加者48名
GW 12回 参加者67名
夏休み 20回 参加者148名
冬休み 8回 参加者89名

・サイエンスショー

来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。会場はちえりあ内での実施や市内幼稚園等へ出向き、科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。
(ちえりあ開催)
122回 参加者2,435名
「ゆらゆら揺れる振り子の不思議」ほか
(市内幼稚園等)
117回参加者9,294名
出前サイエンスショー

・他施設での実演等

大型商業施設や社会教育施設等で実演やワークショップを実施した。
8施設 6,658名

・日曜実験室

ちえりあを会場に、小中学生を対象とし、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。
52回 参加者477名
「のぞいてみよう Microの世界」ほか

▼ 移動プラネタリウム

地理的・時間的に来館困難な学校などで移動プラネタリウムを用いた投影を行うことで学校教育との連携を図り、児童・生徒の天文に対する興味関心を喚起した。
小学校 12校12回 552名
中学校 1校 1回 89名

ちえりあにて、事前申込制として実施した。作品の稼働する仕組みや道具の使い方などを学ぶ機会を提供できた。

サイエンスショーやワークショップなどの実演をとおして、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

身近な題材を取り上げた実験を行い、理科の面白さを伝えることができた。

来館が困難な小学校・中学校の児童生徒に天文分野に係る学習内容を伝えとともに、宇宙・天文分野に関する興味関心を喚起することができた。

科学館を使用できない状態の中で、子どもから大人まで科学を楽しめる工作教室や実験室を実施していることを評価する。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながる展示である。今後も、市民が楽しめる工夫をし、一人でも多くの方に興味を抱かせることを期待する。

▽ 移動プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発

▼ 一般投影・特別投影

生涯学習センターや市内公共施設などで、移動式プラネタリウムや天文シミュレーターを用いた投影を行った。観覧者の年齢層にあわせた内容や話し方を工夫するなど、星座や天文知識をわかりやすく紹介した。特別投影に関しては、休館中であったため、プラネタリウム実機で投影した模様を録画し、180°VR動画として再編集したものをYouTube上で公開した。

一般投影 46回 参加者2,277名
特別投影(オンライン) 8日間 視聴回数2,912名

休館中ではあったが、移動式プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介するなど、広く市民に対して天文分野への興味関心を喚起することができた。

利用率向上のため、リピーター確保の方策を実施したことを大変評価する。今後も新たな利用者獲得、リピーター増に向けた番組の充実など工夫を期待する。

▼ 学習投影

小中学校を対象に、理科授業の一環として、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、天体の動きなどを学習するプラネタリウム投影やスライド学習等を行った。休館中のため、移動プラネタリウムや天文シミュレーターを使用した出前形式で事業を実施した。

移動プラネタリウム投影 192回 参加者65校4,763名
天文出前授業 93回 参加者89校6,036名

机上の学習では表現しにくい天体の動きについて、移動プラネタリウム内で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。移動プラネタリウムによる学習投影を希望する学校が多く、その全てに応えることはできなかったが、希望が叶わなかった学校に対しても、天文シミュレーターやスライドを活用した天文出前授業を実施し、対応することができた。

各学校のスカイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとってわかりやすく、効果的な学習となっていることを評価する。また、天文出前授業を実施し、学校の授業の手助けをする取組を行ったことを評価する。子どもたちの天体への関心が高まる工夫を今後も期待する。

▼ オート番組制作・購入

プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を青少年科学館の特色・独自性を生かして制作したほか、市販の番組上映権の購入等を進めた。

・制作

オリジナルオート番組「科学戦隊サイエンジャー ぎんがと夢の宇宙大冒険」

・購入

「水の惑星-星の旅シリーズ-」、「宇宙船レオの大冒険」

太陽系の惑星や銀河をテーマとしたオリジナル番組を制作したほか、未就学児に合わせた番組、大人向けのヒーリング番組と、幅広い客層に向けた番組を取り入れることができた。

幅広い市民に楽しんでもらえるような工夫を凝らした運営を行っていることを評価する。今後も、市民の利用増が見込めるような投影を期待する。

▼ 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。休館期間のため移動式プラネタリウムを用いて実施した。

1回 参加者25名

字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。
移動式プラネタリウムでの字幕投影は初めての試みであったが、問題無く実施することができた。

▼ キッズプラネタリウム

未就学児とその保護者を対象に、童謡やクイズを取り入れた親子で参加できる特別なプラネタリウムの投影を行った。休館期間のため移動式プラネタリウムを用いて実施した。

3回 参加者82名

幼児向けの投影素材を充実させ、対象年齢に合わせた投影ができた。
休館中は、ちえりあを会場とすることで、今まで比較的参加者が少なかった西区手稲区など厚別区から遠方にお住まいの方々が多く参加されるなど、新しい層へアプローチすることができた。

▼ さっぽろ星まつり

モエレ沼公園を会場に、市民の天文への関心を高めるため、宇宙に関するゲームや工作、天体観望会等を実施した。

2日間 参加者約4,150名

例年会場としていた、さとらんどからモエレ沼公園に会場を変更した。
バラエティに富んだ数多くの企画を催したことで、幅広い年代層の方に対し、天文普及を行うとともにイベントを楽しんでいただくことができた。
会場が若干狭くなったことと、想定を超える来場者が訪れたため、全体的にやや混雑した状況が続いてしまったが、令和6年度も同会場での開催を予定しているため、反省を生かし、改善につとめたい。

アウトリーチ活動は、新たな利用者の獲得につながる。とともに、科学館に来館できない子どもたちにとっての貴重な学習機会の提供となることから、更なる事業の拡大を期待する。

	▼ 移動天文台 学校や町内会、青少年育成委員会などからの要請により、移動天文車と職員及び天文指導員を派遣し、望遠鏡を用いた天体観望や星空解説を行う観望会を実施した。 天体観望実施 21回、曇天対応(星の解説) 8回、中止 8回	広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。	
	▼ 札幌市天文台 天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部にある中島公園内の札幌市天文台を公開し、日中は太陽を、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。 636回(午前、午後、夜間すべて含む) 来台者 17,251名	太陽や季節の星座の星を中心に、広く市民に天体観測の機会を提供できた。夜間公開の申し込みをオンライン化したことで、より利便性を向上させることができた。昨年度から引き続き、海外からの観光客が多く見られ、年間の来台者数は、ほぼコロナ前の水準まで持ち直した。	昼間、夜間公開を通して、多くの市民等に天文に関する知識の普及啓発を行い、ここ数年の観覧者数が1万人を超えていることを評価する。嘱託職員の入れ替えがあってもこのような取り組みが継続できるよう、具体的な計画等を策定すること。
	▼ 宇宙セミナー 宇宙に対する市民の興味・関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招き最新の天文情報に基づく講座を実施した。 講師：北海道大学大学院理学研究院 教授 岡本 崇氏 1回 参加者146名	宇宙天文分野の最新情報を含む貴重な話を、一般の方々に伝える良い機会となった。専門知識が無くても理解できるよう、わかりやすく伝えていただいたことで、多くの参加者から好評だった半面、子どもたちにはいささか難しかった部分があったようで、一部参加者と内容のミスマッチに関しての指摘があった。次年度以降、事前の広報でターゲット層をより明確にできるように心掛けていく。	旬の話題について、オンラインも活用し、幅広い市民に提供できたことを大変評価する。引き続き、先端的な内容の研究・開発を市民に普及できるような講演に期待する。

▼ 大人のための天文教室 これから星空を楽しみたいという初心者を対象とした、星の基礎知識や星座早見盤の使い方を学ぶ基礎講座「やさしく学ぶ星空教室」や、星や天文について、少し詳しくなりたい方向けの中級講座である「詳しく学ぶ天文講座」をそれぞれ実施した。 やさしく学ぶ星空教室 1講座(全3回) 参加者29名 詳しく学ぶ天文講座 1講座(全3回) 参加者23名	初心者から中級者へ向けて、レベルに沿った天文教室を行い、市民への天文知識の普及啓発を図った。休館中は、ちえりあを会場とすることで、今まで比較的参加者が少なかった西区手稲区など厚別区から遠方にお住まいの方々が多く受講されるなど、新しい層へアプローチすることができた。	老若男女問わず学習できる場として寄与していることを評価する。引き続き幅広い世代への学習機会の提供となる取組に期待する。
▼ 親子天文教室 楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。 6回 受講者92組226名	親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。	
▼ 天文指導員の養成 天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。 天文指導員登録者総数 43名	毎月の定例研修や移動天文台での天文解説、天文台夜間公開の補助など、様々な活動機会を設け、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、一般の方々に対して、物事を「伝える」技術を学ぶ機会を提供した。	専門的な人材確保のため、継続的な取組を期待する。また、研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。
▼ 天文情報リーフレット「星空散歩」の発行 季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載し、館内及び市内公共施設等で配架した。 4回(6月、9月、12月、3月) 計14,000部	季節ごとの天体情報に加え、流星群などの旬の天文現象を市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。	

	▼ 他団体との連携事業 他団体と連携、協力し、宇宙天文分野に関する興味関心を喚起するため、様々な事業を実施した。 ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト(主催:JAXA、YAC) 応募作品18点 ・夏休み天体観望会(共催:(公財)さっぽろ青少年女性活動協会) ※悪天候のため屋内での星空解説 参加者36名 ・移動プラネタリウム(滝川市こども科学館) 参加者175名 ・デジタル宇宙シアター(三越札幌店) 参加者113名 ・星空観望会/移動プラネタリウムデモンストレーション(札幌プリンスホテル) 参加者6名 ・プラネタリウム出張投影(一宮市地域文化広場) 参加者320名 ・移動プラネタリウム(サッポロファクトリー) 参加者122名 ・移動プラネタリウム(厚別東小学校PTA) 参加者93名 ・移動プラネタリウム&スライド投影(清田緑小学校PTA) 参加者131名 ・移動プラネタリウム(厚別区PTA連合会) 参加者121名 ▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力 ▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。 ・北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会) ・道央地区博物館等連絡協議会総会(道央地区博物館等連絡協議会) ・指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会) ・全国博物館館長会議および全国科学博物館協議会理事会・総会(全国科学博物館協議会) ・全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会) ・北海道プラネタリウムWG研修会in旭川(日本プラネタリウム協議会) ・全国プラネタリウム大会・倉敷(日本プラネタリウム協議会) ・全国プラネタリウム研修会・渋谷(日本プラネタリウム協議会) ・北海道青少年科学館連絡協議会職員研修 ・北海道中学校理科研究会 札幌大会 ・科学館・博物館若手職員向けグローアップ研修交流会	様々な団体と連携することで、色々な地域や参加者層に対し、幅広い事業を展開することができた。 関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。	各種関係機関や他の社会教育施設、学校教育機関、地域と連携した取組を評価する。 このようなネットワークを活かし、今後も引き続き、幅ひろい層へ事業を展開することを期待する。
--	--	--	--

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1" data-bbox="405 197 970 367"> <tr> <th></th><th>R4年度実績</th><th>R5年度計画</th><th>R5年度実績</th></tr> <tr> <td>展示室</td><td>106,227</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>プラネタリウム</td><td>55,005</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>総計</td><td>161,232</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="405 412 970 450"> <tr> <td>事業参加者数</td><td>32,703</td><td>—</td><td>77,504</td></tr> </table> ▽ 利用促進の取組 ▼ 休館中は、生涯学習センターに仮事務所を置き、講座や実験、工作等については同センターの貸室で実施した他、アウトリーチ事業や SNS 上での実験動画等の配信を行い、科学に関する知識の普及啓発に努めた。		R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績	展示室	106,227	0	0	プラネタリウム	55,005	0	0	総計	161,232	0	0	事業参加者数	32,703	—	77,504	休館中のため、施設の利用者はゼロであったが、学習機会を減らさぬよう、アウトリーチ事業や各種団体との連携を積極的に行い、新たな利用者を増やすチャンスにつなげた。	<table border="1" data-bbox="1214 152 1418 190"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </table> 休館前に比べ、事業参加者数も増えており、アウトリーチ事業に力を入れてきたことがわかる。再開館後もアウトリーチ事業を継続し、科学および科学技術の普及に資する取り組みを期待したい。	A	B	C	D
	R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績																								
展示室	106,227	0	0																								
プラネタリウム	55,005	0	0																								
総計	161,232	0	0																								
事業参加者数	32,703	—	77,504																								
A	B	C	D																								
(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼ ホームページをリニューアルし、従来のものよりイベント情報等にアクセスしやすく、館の情報が利用者に伝わりやすいページ構成となった。リニューアルオープン前にはSNS等で館内の様子を積極的に情報発信し、オープン前の期待感を高めることができた。また、ウェブアクセシビリティの向上のため、JIS X 8341-3:2016「附属書 JB(参考)試験方法」に基づき検査を行い、レベルAA準拠であることを確認した。 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。	ホームページのリニューアルに伴い構成を工夫し、利用者に伝わりやすい情報発信を心がけた。休館中は、SNSでの実験動画等の配信にも力を入れ、より多くの方に科学に関する興味関心を促すことができた。	<table border="1" data-bbox="1214 651 1418 689"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </table> 今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。	A	B	C	D																				
A	B	C	D																								
2 自主事業その他																											
▽ 自主事業	▼ 売店事業 売上高 709,670円 ▼ その他 収入額 2,629,970円 商業施設等から依頼を受け、サイエンスショーや移動プラネタリウム等を行った。 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。 ▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。	休館中であつたが、売店の出張販売や出張イベントにより収入を得ることができた。	<table border="1" data-bbox="1214 1225 1418 1263"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </table> 科学館の価値を高めるため、自主事業の積極的な展開に期待したい。 引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。	A	B	C	D																				
A	B	C	D																								

▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。 ・字幕付きプラネタリウムの実施		聴覚にハンディがある方へ向けた字幕付き投影の実施など事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができる。	ユニバーサルデザインの対応含め、多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫がされており、評価する。								
3 利用者の満足度											
▽ 利用者アンケートの結果		アンケート結果は「とてもよかった・よかった」が99%以上となっており、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。 寄せられたご意見に関しては、すぐに対応することが難しいものについても真摯に受け止め、将来的なサービス向上へつなげていきたい。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">利用者アンケートについては、アンケートの回収数が少ないため、正確な満足度が測れていないと思われる。そのため、今後は目標の標本数の回収に努めてほしい。 出張イベントに対する期待も多いことから、今後も出張イベントを継続することを期待する。 </td></tr></table>	A	B	C	D	利用者アンケートについては、アンケートの回収数が少ないため、正確な満足度が測れていないと思われる。そのため、今後は目標の標本数の回収に努めてほしい。 出張イベントに対する期待も多いことから、今後も出張イベントを継続することを期待する。			
A	B	C	D								
利用者アンケートについては、アンケートの回収数が少ないため、正確な満足度が測れていないと思われる。そのため、今後は目標の標本数の回収に努めてほしい。 出張イベントに対する期待も多いことから、今後も出張イベントを継続することを期待する。											
<table><tr><td>実施方法</td><td>事業に参加された利用者を対象に記入式のアンケートを実施した</td></tr><tr><td>結果概要</td><td>科学館全体の満足度 とてもよかった(89.2%) / よかった(10.4%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%) 職員の対応 とてもよかった(88.4%) / よかった(11.1%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%)</td></tr><tr><td>利用者からの意見・要望とその対応</td><td>【意見・要望】 ・来年以降もちえりあでイベントを開催してほしい ・団体予約を電話のみでなく、FAXやWEBでも受け付けてほしい 等 【対応】 ・様々な事情で科学館へ来館することが難しい方がいらっしゃるの、出張イベントの実施について前向きに検討していきたい。 ・先着で駐車場やプラネタリウムの座席を取り合うことから電話のみでの受付としているが、将来的にはインターネットによる受け付け等にも対応するシステムの導入を検討したい。</td></tr></table>	実施方法	事業に参加された利用者を対象に記入式のアンケートを実施した	結果概要	科学館全体の満足度 とてもよかった(89.2%) / よかった(10.4%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%) 職員の対応 とてもよかった(88.4%) / よかった(11.1%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%)	利用者からの意見・要望とその対応	【意見・要望】 ・来年以降もちえりあでイベントを開催してほしい ・団体予約を電話のみでなく、FAXやWEBでも受け付けてほしい 等 【対応】 ・様々な事情で科学館へ来館することが難しい方がいらっしゃるの、出張イベントの実施について前向きに検討していきたい。 ・先着で駐車場やプラネタリウムの座席を取り合うことから電話のみでの受付としているが、将来的にはインターネットによる受け付け等にも対応するシステムの導入を検討したい。					
実施方法	事業に参加された利用者を対象に記入式のアンケートを実施した										
結果概要	科学館全体の満足度 とてもよかった(89.2%) / よかった(10.4%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%) 職員の対応 とてもよかった(88.4%) / よかった(11.1%) / ふつう(0.5%) / よくなかった(0%) / とてもよくなかった(0%)										
利用者からの意見・要望とその対応	【意見・要望】 ・来年以降もちえりあでイベントを開催してほしい ・団体予約を電話のみでなく、FAXやWEBでも受け付けてほしい 等 【対応】 ・様々な事情で科学館へ来館することが難しい方がいらっしゃるの、出張イベントの実施について前向きに検討していきたい。 ・先着で駐車場やプラネタリウムの座席を取り合うことから電話のみでの受付としているが、将来的にはインターネットによる受け付け等にも対応するシステムの導入を検討したい。										

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	328,205	334,825	6,620
指定管理業務収入	326,972	331,485	4,513
指定管理費	325,769	325,769	0
利用料金	0	0	0
その他	1,203	5,716	4,513
自主事業収入	1,233	3,340	2,107
支出	374,497	363,155	▲ 11,342
指定管理業務支出	367,694	357,641	▲ 10,053
自主事業支出	6,803	5,514	▲ 1,289
収入-支出	▲ 46,292	▲ 28,330	17,962
利益還元	0	0	0
法人税等	60	39	▲ 21
純利益	▲ 46,352	▲ 28,369	17,983

▽ 説明

▼展示物大規模 リニューアル及び施設の長寿命化等の改修工事に伴い令和5年度は休館していたため、利用料金収入はゼロであった。

▼収入項目のその他の部分は、休館中も継続していた工作教室参加費などの事業収入と、休館中科学館に滞在していた業者による光熱水費の補填を含んでいる。

休館により収入源が減るため赤字を見込んでいたが、売店の出張販売による収入増、人件費などの支出を抑えた結果、赤字幅を減らすことができた。

A B C D
利用料金収入がなかった中でも、計画よりも自主事業収入を増やしたことを評価する。光熱費等の高騰もあると思うが、今後も収入と支出の均衡をとるよう努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼ 当団体の財務状況等は良好である。

適

不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。

適

不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
展示物大規模リニューアル及び施設の長寿命化等の改修工事に伴い、令和5年度は休館した中で、事業はちえりあを拠点として工作や実験教室を開催した。また色々な企業からのアウトリーチ事業依頼に対応していった。令和6年2月からは、科学館に拠点を戻し、再開館に向けて準備を行った。 直接展示物に触れる機会の提供を続けるため、昨年度に引き続き、札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)において、夏の特別展「あそんでまなぼう！じしゃくのチカラ」を実施した。なお、冬の特別展「冬のサイエンスまつり」を、新さっぽろサンピアザ光の広場において実施し、再開館に向けて科学館が戻ってくることをPRした。 休館中でも学習機会を減らさぬよう、アウトリーチ事業を積極的に行った。小学校向けには、出前授業や移動プラネタリウムを用いた学習投影を、幼稚園等には「出前サイエンスショー」を行った。一般向けには、「移動プラネタリウム＆サイエンスショー」を市内各地で実施したほか、各種団体との連携やイベント協力も行い、新たな利用者を増やすチャンスにつなげた。	令和6年度は、再開館となるが、科学館の設置目的を達成するための事業の水準が例年を下回らないよう注力するほか、入館についての混雑対応、新展示物のメンテナンスなど再開館に伴う想定業務にも併せて対応していく。 広報に関しては、リニューアル需要や露出増が落ち着いてきたタイミングで取り上げてもらえるように、計画的に報道機関等に働きかけていけるようにしたい。 リニューアル後の再開館では、需要が高まり混雑が予想されたことから、対策としてオンライン事前予約を導入した。利用者の利便性を高めつつ、集客増につなげられるように、告知運用をしていきたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
企画展示、特別展示などにより幅広い市民に科学を楽しく学べる場を提供しており評価する。 休館期間中も工事業者と連携を図り、再開館に向け、工事、修繕が間に合うように調整するなど、科学館の維持管理、保全に務めたことを評価する。 また、科学館を使用できないにも関わらず、アウトリーチ事業を積極的に行い、利用者の拡大に務めたことは特に評価する。再開館後は科学館がより一層市民に親しまれる施設となることを期待する。	再開館後は多くの混雑が起きると思うが、来館者が、できるだけ多くの展示物を体験できるような運営方法を期待する。 また引き続き、アウトリーチ事業を続け、幅広い層の顧客の獲得ができることを期待する。 再開館により、観覧者数が一時的に増幅することが予測されるが、訪れた観覧者が何度も再開館してくれるような新しい事業の展開を期待する。 利用者アンケートについては、目標の調査標本数まで足りていないため、創意工夫し、多くのアンケートを回収できるよう具体的な改善策を講じること。